暮らし支える街 ㊦

三重・桑名市寺町通り商店街

子どもたちにも人気

三重県桑名市の「桑名市寺町通り商店街振興組合」（佐藤博之理事長）は、高齢者だけでなく子育て世代にも働きかけてきました。「地元の商店街の存在を知り、親しみをもってもらえるように」とさまざまな取り組みをしています。

体験学習開く

8年前から、親子でお店の仕事体験やもの作りができる「てらまち体験学習フェア」を開いています。今年は6月21日に開催しました。アレンジフラワー（生花店）、腕輪や金箔（きんぱく）鉛筆（仏壇店）作りなど多彩な体験コーナーが設けられ、約5000人が訪れました。

和菓子店では、かき氷づくり、ソフトクリームのクリーム巻き体験に子どもの列ができました。従業員に手を添えてもらい「冷たいねえ」「うまくできるかな」と真剣な顔つきです。

魚介類のしぐれ煮を販売する店では、子どもたちがハマグリの串焼きに挑戦しました。「熱いね」とこわごわあぶった串焼きにかぶりつく子どもたち。「うまい」と声があがります。

動物やクローバーの形に型抜きした木に色をつけてキーホルダーをつくるお店にも子どもが押し寄せました。

和菓子店店主の後藤泰雄さん（42）は「商店街のファンをつくるという点で、プラスになっていると思う」と話します。

毎年秋、市内小学校の3年生が商店街を訪れて買い物をする取り組みも心待ちにされています。約20年前に1校から始まったものが、いまは全小学校（27校）で実施されています。

それぞれのお店が、普段扱う商品以外に、100円、200円で買える商品を用意します。自分がほしい物とあわせて自宅へのおみやげを買って帰る子もいます。後日、家族と買い物に来る子どもも少なくありません。

店主が準備して夜店も開きます。今年8月22、23の両日、夏の大売り出しと「三八市」を兼ねて開いた「びっくり夜店」は約3000人でにぎわいました。

多数の親子連れでにぎわった「てらまち体験学習フェア」＝6月21日（桑名市寺町通り商店街振興組合提供）

商店街振興組合は、国のまちづくり事業や県の商店街活性化の補助金を活用して、自動体外式除細動器（AED）や発光ダイオード（LED）照明などを設置してきました。

後継者いない

商店街には課題もあります。店主の多くが70、60代ですが、後継者がいない店が多いことです。空き店舗や更地もあります。

商店街振興組合は、大売り出しのチラシに空き店舗情報を出すなどし、新規開業者が増えています。手作りアイスキャンディー店を父親と営む稲垣星子さん（22）は今年4月、市内東部の地域からこの商店街に移ってきました。「子どもにお年寄り、いろんなお客とふれあえます」と話します。約2年前に飲食店を開いた男性（35）も「生まれ育ったまちで商売を始めたかった」と言います。

佐藤理事長は「お客さまがくつろげる飲食店、周辺のスーパーに対抗できる地産地消の生鮮品や総菜がそろう店を誘致したい。子育て世代や若者に支持される市で一番の商店街を目指していきたい」と話します。

（おわり）

10月16日、17日、発行の「しんぶん赤旗」（日刊紙）に「桑名市寺町通り商店街」が掲載されましたので紹介します。益々の発展を期待します。そういえば、立教小学校の5・6年の担任の水谷良子先生は、「三八先生」というあだ名で有名でした。三八の市ができた時に、すぐに行かれたとか。改めてご冥福をお祈りします。【星野記】